植物漸く稀なり

ことゝ五分餘なるを見る。又植物の眼に入るもの、漸次稀なるに至りたり。

六、燃料缺乏して馬糞を焚く

二十四日、是日氣温、午後四十八度より遂に二十五度に降りたり。午前十時三十分發、行程五里半、稍々僅少なりと雖も、明朝過嶺の難あるが故に午後二時三十分、エンギ嶺北に幕宿

エンギ嶺北に幕宿

エンギ達坂の北麓に幕宿す。道路は依然岩石多く傾斜次第に急を告ぐ。且つ是日は燃料缺乏の爲め、遂に馬糞(乾固せるもの)を焚くに至り、殊に空氣稀薄と爲りて、呼吸少しく惱むを覺ゆ。

空氣漸く稀薄

曩には新疆省會以東の各地に於て、馬糞を以て燃料とするを耳にし、心私に其の貧寒なるを憐みたり。以爲らく燃燒異臭に堪へざるべく、從て其の之に依りて煮られ或は炙られたるもの果して如何なるか、其の器完全ならざるときは、石炭を用ひてすら、薫染の臭氣厭ふべきもの有るを免れざるにと。然り昨其の丁零なるを憐みし身は、今や之を親らし、而も之を甘んぜり。燃燒臭氣の敢て堪へ難きを思はざれば、煮え來れる湯は、眞に甘露の美を覺ゆ。熟々人は其の境遇に因りて、何物をも滿足し得べきの理を觀ずるや、深し。